

松本ピアノ コンサート 歌の調べにのせて ～シューベルトと日本の叙情歌の世界～

バリトン **小野忠雄** ピアノ **小野楊子**

2022.7.9 (土) 開演 13:30 君津市民文化ホール 大ホール

[プログラム]

※プログラムは変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

1st stage

《シューベルト歌曲》

1. Im Frühling 春に
2. Frühlingsglaube 春の想い
3. Der Wanderer さすらい人
4. Der Wanderen an den Mond
さすらい人が月に寄せて
5. Lachen und Weinen 笑いと涙
6. Die Forelle ます
7. An Silvia シルヴィアに
8. Seligkeit 至福
9. Im Abentrot 夕映えの中で
10. An die Musik 音楽に寄せて

《ピアノ・ソロ曲》

1. 「エリーゼのために」 ベートーベン
2. 「トロイメライ」 シューマン

～intermission～

2nd stage

《日本の歌》

1. 鐘が鳴ります 山田耕筰
2. かやの木山の 山田耕筰
3. 中国地方の子守歌 山田耕筰
4. 甲斐の峡 平井康三郎
5. 平城山 平井康三郎
6. 九十九里浜 平井康三郎
7. 荒城の月 滝廉太郎
8. 椰子の実 大中寅二

本公演で使用するピアノについて

君津市八重原工場で製作当時 20 代だった 2 代目松本新治が
心血を注ぎ作り上げたミニグランドピアノです。

◆製作年：昭和 10 年 (1935)・昭和 12 年 (1937) 頃に
君津市八重原工場にて製作

◆製作者：松本新治 松本新一氏により修復が施されています



「松本ピアノ」は明治時代に君津市常代出身の松本新吉が創立したピアノ製造メーカーです。ピアノの響きを決める響板には国産(北海道産)のエゾマツを採用し、あたたかな響きを持つ、穏やかで美しい音色(SWEET TONE)が特徴のピアノを作りました。戦前の国内三大ピアノ・メーカー「松本」「西川オルガン」「山葉(ヤマハ)」の一つとして数えられ、当時は『見映えのヤマハ、音色の松本』と評され人気を博していました。松本新吉、息子の新治、孫の新一とピアノ製造の技は継承され、1991 年に製造工場が操業停止されるまで作り続けられていました。

出演者プロフィール



〈小野忠雄〉 武蔵野音楽大学声楽科卒業。同大専攻科修了。声楽を川村英司氏に師事、声楽と指揮をフェルディナント・F. グロスマン教授（ウィーン国立アカデミー）より厚い薫陶を受け、ジェラルド・ムーア、エリック・ヴェルバ各氏からも教えを受ける。

在学中よりプロ合唱団等において活動後、教職に就く。都立、千葉県立高校で教鞭をとりながら、ドイツ・リート、オラトリオを中心とするコンサートに出演。「白鳥の歌」「冬の旅」等のリサイタル。バッハ《マタイ受難曲》や教会カンタータ、ヘンデル《メサイア》、ハイドン《天地創造》、モーツァルト《レクイエム》《戴冠ミサ》、ベートーヴェン《八長調ミサ》、メンデルスゾーン《パウロ》、ブラームス《ドイツ・レクイエム》、フォーレ《レクイエム》、ヴェルディ《レクイエム》等数多くの宗教曲やベートーヴェン《第九》のソリストとして活躍。千葉県立高等学校長を最後に公職を退き、音楽活動に専念。

千葉県立館山総合高校・南房総市立富浦小学校校歌を作曲（共作）。

清見台混声合唱団指揮者。きみさらず女声合唱団指揮者。南総の第九合唱指揮者。

〈小野楊子〉 武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。千葉県立高校に勤務の傍ら館山市において“青少年に良い音楽を”をテーマに20年にわたり「音楽の輪」コンサートを開催。

南総文化ホール「第九」の合唱指導、伴奏ピアニスト。

千葉県立君津高校を最後に公職を退き現在は後進の指導にあたる。

千葉県立館山総合高校・南房総市立富浦小学校校歌を作曲（共作）。

1st stage 《シューベルト歌曲》 歌詞要約

1. Im Frühling 春に

澄み切った空、春風にそよぐ丘に二人座り
泉には青く明るい空と あの子が映っていた
今も あの頃と変わらないが
心と想いは移ろい 愛する心だけが残った
僕が小鳥だったら 枝にとまって
あの子のことばかり 歌うのに

2. Frühlingsglaube 春の想い

爽やかな風が吹く 春の気配
新鮮な香りと響き
花はいつ果てるともなく咲続ける
哀れな心よ 苦しみは忘れよ
すべてが変わるのだ

3. Der Wanderer さすらい人

さすらい私に喜びはなく
どこに行っても他国者
憧れの国はどこにあるのか？
“ここにはない！”
幸福はおまへのいない所にあるのだ！”

4. Der Wanderer an den Mond さすらい人が月に寄せて

私は地上を おまへは空を さすらい続ける
私はどこに行っても 落ち着く場所がないが
おまへはどこに行っても 落ち着ける
限りない天空が おまへの故郷だから

5. Lachen und Weinen 笑いと涙

朝笑っていたのに 夕べには泣いている
夕べに泣いていたのに 朝になれば笑っている
若いとはそういうもの

6. Die Forelle ます

澄んだ小川で ますが軽やかに泳いでいる
釣り人がやってきたが
水が澄んでいて 針にかからない
すると釣り人は 小川をかき回し濁らせ
ますは針にかかってしまった
なんとも言えない 腹立たしさ

7. An Silvia シルヴィアに

皆が讃える シルヴィアって誰の事？
天の恵みを受けた彼女の
美しさや気立てにかなうものはいないよ
愛の神は彼女の瞳に安らぎを宿らせた
シルヴィアを讃えよう
冠を彼女に

8. Seligkeit 至福

天国はとっても素敵なところと人は言う
そこに行って永遠の喜びを共にしたいね
けれど やっぱり もう少し
彼女と この世にいたいね！

9. Im Abentrot 夕映えの中で

あなたの世界のなんという美しさ
世界は金色に輝きながら 西に落ち
空を淡く染めるとき
この胸に あなたの天国を
しっかりと抱き続けよう

10. An die Musik 音楽に寄せて

気高き芸術よ
私が苦しみ荒んでいた時
あなたは より良い世界に導いてくれた
あなたの 甘く清らかな響きは
天国にも上る気持ちに導いてくれた
気高き芸術よ
あなたに感謝します